



## おひさまの魅力に迫る

8/7 おひさまふれあいトークショー

連続テレビ小説「おひさま」ふれあいトークショー（NHK 主催）が、8月7日、穂高交流学習センター「みらい」で行われました。ゲストには、須藤良一役の寺脇康文さん、相馬剛三役の平泉成さんが登場。平泉さんが「ひげ」を着け剛三に扮すると、会場からは笑いがもれ和やかな雰囲気で行進しました。当日は2人の出演場面や撮影の裏話、視聴者の感想なども披露され、県内外から参加した150人は、大詰めを迎えた「おひさま」の世界を満喫しました。



## 人馬一体で挑む

8/27・28 第32回北信越国民体育大会馬術競技

第32回北信越国民体育大会馬術競技が8月27日、28日の2日間、豊科南穂高のあづみの乗馬苑で行われました。長野県勢は国民体育大会5年連続優勝の実績をもつ佐藤泰選手（小川村）をはじめ10人が出場しました。27日午後に行われた成年女子二段階障害飛越競技では、チームメイトなどが声援を送る中、コース内に設けられた障害を制限時間内に正確に通過できるか競い合いました。大会の結果、長野県は総合1位となり、10月、山口県で開催される第66回国民体育大会へ出場します。

9 広報 あづみの 2011.9.21

## 復興を願って 夜空へ1万発

8/14 安曇野花火

5回目となる安曇野花火（実行委員会主催）が、8月14日、明科御宝田遊水池で行われました。

今年は、「震災復興がんばろう日本！」をテーマに開催され、東日本大震災で市内へ避難されている皆さんや栄村の皆さんを招待したほか、冒頭には黙とうをささげるとともに鎮魂の花火が打ち上げられました。

震災で不安の中、安曇野が安らぎの地となるよう、安曇野の山紫水明をイメージした、色とりどりの1万発の花火が打ち上げられると、集まった約1万5千人の観客から拍手と歓声があがっていました。

なお、協賛金の一部120万円余りは、義援金として日本赤十字社を通じ被災地へ届けられます。



## 晩夏の宴、能の舞に酔う

8/20 信州安曇野薪能<sup>たきぎ</sup>

今年で第21回を数えた「信州安曇野薪能」が8月20日、明科体育館で開催されました。雨の影響で初めて屋内での開催になりましたが、700人の観客が幽玄の世界を堪能しました。

この薪能は、観世流能楽師であった故青木祥二郎さんが旧明科町の名誉町民に選ばれたのがきっかけで始まったもので、この日はご子息である青木道喜さんをはじめ、野村萬さん、片山幽雪さんら2人の人間国宝の能楽師も迎えて上演され、厳かな能楽やユーモアあふれる狂言の世界に会場全体が引き込まれていました。

上演の前には、6月から練習してきた市内小中学生による仕舞と連吟が披露され、一人ずつ舞台いっぱいに舞う姿に盛んな拍手が送られました。

開演の合図となる、舞台前のろうそくへの火入れで火の運び役を務めた山口めぐみさん（21歳、明科）は「外の時と違って一人で、しかも舞台上を歩いたのでとても緊張しました。自分もそうでしたが、すごい先生方が地元に来ていて、事を知ってもらって、若い人にも見に来てもらいたいと思います」と話しました。



## 敬老の日 長寿を祝う

9/5 市内最高齢者などに祝い品伝達

市では、敬老の日の高齢者祝賀事業として、9月5日、市内で女性の最高齢者となった三枝つるさん（105歳）を宮澤市長が訪問し、祝い品を手渡しました。ご家族の話では、97歳ごろまで家事をこなし、今でも食事をしっかりとるとのこと。つるさんは、宮澤市長から祝い品を手渡されると笑顔で応えていました。

このほか、市内で男性の最高齢者の小林達郎さん（107歳）をはじめ、本年度88歳を迎える男女485人と100歳を迎える男女12人にも祝い品を贈り、長寿をお祝いしました。



## 青空にあづみっ子の歓声響く

8/27 あづみっ子祭り

市教育委員会による、あづみっ子祭りが8月27日、豊科南部総合公園で行われました。この催しは、市内の幼児から中学生までの子どもたちが野外での遊びを通じて交流するもので、当日は2,000人を超える子どもたちと保護者が来場しました。会場には、竹トンボや紙飛行機などの工作コーナーや、巨大迷路、巨大シャボン玉などのあそびコーナーなどが設けられ、青空の下、出来上がった竹トンボや紙飛行機で競い合う姿が見られました。また、イベントの障害物競走では芝生を駆け抜ける、子どもたちの元気な声会場に響きました。

2011.9.21 広報 あづみの 8